

News Release

平成30年6月1日
NITE（ナイト）
独立行政法人製品評価技術基盤機構
法人番号 9011005001123

空調機器からのフロンガス漏えい抑制に貢献する JCSS 校正事業者が誕生

NITE（ナイト）[独立行政法人 製品評価技術基盤機構 理事長：辰巳 敬、本所：東京都渋谷区西原] は、計量法校正事業者登録制度（JCSS）^{※1}において、フロンガスの漏えい量管理にとって重要な漏えい検知器（リークディテクタ^{※2}）の精度検査用器具「標準リーク^{※3}」の校正事業者として、株式会社アルバック（代表取締役執行役員社長 岩下節生 法人番号 5021001007242）を、平成30年6月1日に初めて登録しました。

今後、JCSS 校正事業者により校正された「標準リーク」を使うことにより、ビルや工場に設置された業務用空調機器などで、リークディテクタを使った高精度の測定が可能になります。その結果、フロンガスの漏えい量管理が徹底され、地球環境の保全に大きく貢献することが期待されます。

フロン類は、オゾン層破壊や地球温暖化の原因物質であることから、世界的に規制が進んでいます。日本においても、平成27年4月にフロン回収・破壊法がフロン排出抑制法^{※4}へ改正・施行され、ビルや工場で使用される業務用空調機器などには、定期点検によるフロンガスの漏えい量管理が徹底されるようになりました。

ガス漏えい量の測定には、特定のガスの漏えい量を検出する漏えい検知器（リークディテクタ）が使われます。リークディテクタは、日頃から検出精度を点検・管理することが重要であり、その確認に「標準リーク」という精度検査用器具を使います。

しかし、これまで、「標準リーク」の精度を明確にするための“校正”を実施できる JCSS 校正事業者が存在しませんでした。そのため、リークディテクタの検出精度の信頼性も十分とはいえず、産業界からは JCSS 登録された校正事業者を求める声があがっていました。そこで NITE では、「標準リーク」の JCSS での登録体制を整備し、申請受付を開始していました。

その結果、平成30年6月1日に、日本で初めて「標準リーク」の校正事業者を JCSS 登録しました。今後は、JCSS 校正事業者により校正された「標準リーク」がリークディテクタの管理に使われることで、フロンガスの漏えい量計測の信頼性が向上します。これにより、業務用空調機器などに対するフロンガス漏えい量管理が高い信頼性の下で実施され、地球環境の保全に大きく貢献することが期待されます。

※1 計量法及び ISO/IEC17025 に基づき NITE 認定センターが校正事業者の審査や登録・認定などの実務を運営する制度。詳細は JCSS の Web ページを参照。

<https://www.nite.go.jp/iajapan/jcss/index.html>

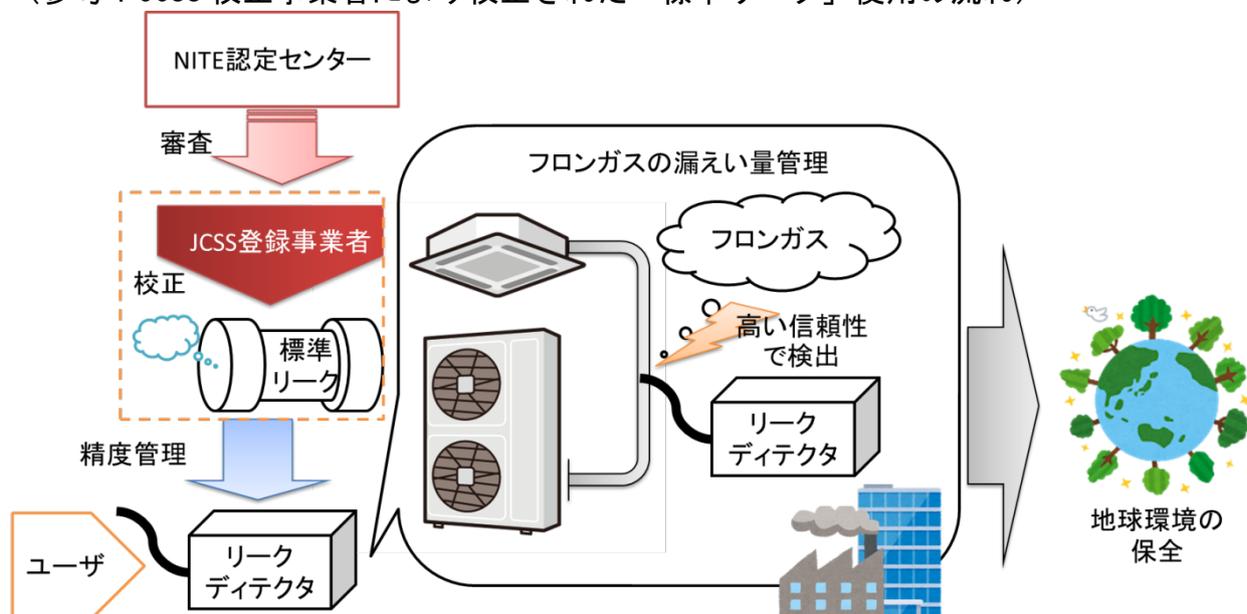
※2 リークディテクタ：大気中にも、又は含まれていてもごく微量な気体を選択的に検出し、その量からガスを封入した装置、配管、真空装置などにおけるリーク（漏えい）の有無、大小を検出する器具。

※3 標準リーク：リークディテクタの感度（リーク検出感度）を調整（校正）するために用いる、ごくわずかな一定のガス流量（リーク量）を発生する器具。ガス流量制限部（リークエレメント）とタンクから構成されるのが一般的であるが、タンクがない場合もある。

※4 環境省のフロン排出抑制法（フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律）の Web ページを参照。

http://www.env.go.jp/earth/ozone/cfc/law/kaisei_h27/

（参考：JCSS 校正事業者により校正された「標準リーク」使用の流れ）



お問い合わせ先

独立行政法人製品評価技術基盤機構

電話：03-3481-8242

認定センター所長 山本 健一

担当者 村田、土屋

FAX：03-3481-1937